留学報告書

静岡県立大学　国際関係学部３年

私はアメリカのオハイオ州立大学にて、2017 年 8 月から 2018 年 5 月まで留学をした。

この留学の目的は、三つある。一つ目は、自分の考えを正確に伝え、論理的に話し、専門的な用語を交えて話すことができるレベルでの言語習得のためである。二つ目は、国際関係学を日本ではなく海外の視点から学ぶということである。三つめは、アメリカの文化や価値観について学ぶとともに、日本の文化を現地の方に伝えるためだ。（特に静岡茶について知ってもらう。）

活動概要について、前期は、語学学校にて授業を効果的に学ぶための英語を学んだ。後期からは、現地の学生と共に国際関係学を学んだ。また、静岡県のお茶について広める活動として、イベントいて静岡茶を提供したり、現地のお茶事情について知るためにお店巡りをしたり、試飲アンケートを行った。以下に、写真と共に、留学内容について詳しく述べていく。

前期は、語学学校にて、アラブ系、アジア系の学生と共に英語を学んだ。既に何学期か在学をしてた生徒が多く、会話の流れが速い上にアクセントがついていたため、話を聞くのに必死で自分の考えを英語で表現することに苦戦していた。しかし、そのなかでいくつかのことを学んだ。一つ目は、失敗をしてもとにかく話せば、自分の苦手な表現や用法に気づくことができるし、英語を使い慣らすことができるため、たくさん話すことが大切ということだ。二つ目は、あいさつや笑顔、相手を知りたいという気持ちや、優しさが、言葉がうまく話せなくても、相手が自分を理解してくれようとするためのきっかけになるということだ。三つ目は、自分が声を出して会話を主導できるよう努力することで、自分の理解度を高めることができるということだ。

（左）語学学校のオフィスにて

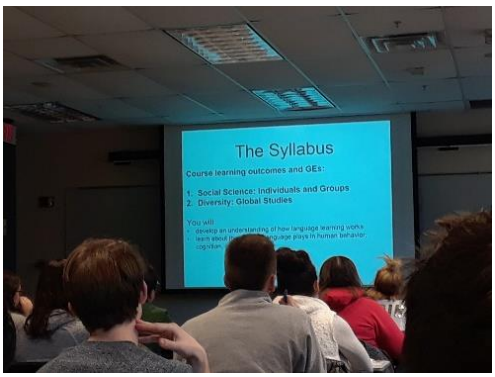
（右）マスコットキャラクターブルータスくんの銅像と

（左）語学学校でできた友達と

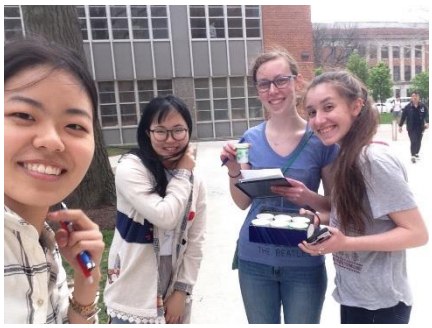
（右）フットボールフィールドにて記念撮影

前期中の生活については、入居予定であったアパートで生活ができず大変な時期もあった。アパートの契約を破棄したく、周囲の大人はあきらめていたが、アパートのマネージャーと交渉することで、契約を破棄し、寮に入ることができた。正当な理由で主張をし、諦めないことで、状況が変化する場合があることを学んだ。また、サークル活動では多くの友人を作ることができ、それによって普通の学校生活ではできないような体験や、つながりを作ることができた。

春学期は、アメリカの学生と同じように、幅広い分野の授業を履修した。国際関係学である平和学、言語学、米国で進んでいる心理学、バレエ、チョコレート科学の授業を履修した。平和学は、日本では取り扱っていない貴重な授業で、ぜひ日本の学生に教えたいと思った。また、この授業で出会い、共に勉強をした友人には、帰国前に家に招いていただき、ご家族と共に今後の人生についての話もした。心理学やチョコレートサイエンスの授業ではグループワークが多く、学生と共に協力して課題を提出するのも楽しかった。というのも、どんどん発言をしていくため、面白いアイデアがたくさんでてくるからだ。



静岡茶を伝える活動では、たくさんの人に試飲やアンケートを行ってもらった。現地の方は協力的な人が多く、お茶に対する嗜好性を知ることもできた。具体的には、あまりお茶を飲み慣れていない一般の学生は、砂糖を加えて紅茶のようにのむ人が多いと気づいた。また、カフェインを摂取するためにお茶を飲む学生もおり、健康的だという理由以外にものむ人がいるということがわかった。アンケート中や、買い物をしているときに、時々心無い言葉や態度をされたこともあったが（高齢の方や、貧困層の人も集まるお店)、日本とアメリカの過去の歴史を感じさせる出来事であった。



オハイオ州立大学は、全米の中でも生徒数や敷地広く、施設（大きなジムが３つ以上、プール等）やアクティビティー（室内ロッククライミング、カヌー、無料でアイスホッケーや野球観戦)、イベント等がたくさんあった。アメリカンフットボールの強豪校としても有名であったため、試合の観戦に行ったときは、ルールはわからないがある程度楽しめた。また、オハイオ州立大学のパーカーを着て他州に旅行したときには、見ず知らずの人に「OH」と言われ、「IO」と返すのが決まりのあいさつで、アメリカのフレンドリーな文化に触れた。また、金曜日にはパーティーが多く、平日や休日にかかわらず、外に出て活動する生徒が大変多かった。天気の良い日には、たくさんの生徒が外でひなたぼっこをしており、自然を楽しむことができるとてもいい文化だと感じた。

価値観の違いで大変苦労したこともあったが、今までにない考えに触れ、他者を知ることで、自分がどのような人間であるのかも理解できるようになった。また英語が話せることは、人種を超えて互いを理解することを容易にする手段であると改めて感じた。今回の留学でうまれたつながりを大切に生きていきたいと感じた。